

4段階評価： 4 期待以上 3 ほぼ期待どおり 2 やや期待を下回る 1 改善を要する

学校経営 ビジョン	「幸ヶ丘ならではの教育実践を通して、確かな学力と生きる力を身に付けた子どもを育成する。」 ① 少人数の利点を生かした教育実践を通して、学力向上を図る。 ② 子どもの将来に必要な資質を見据えた教育実践を通して、生きる力の育成を図る。
--------------	---

項目	本年度の重点目標と 目標達成のための手段	結果の考察・分析及び改善対策等	自己 評価	関係者 評価	結果の考察及び改善対策
知 育	重点目標： 学力向上の推進 手段： 1 複式解消によるきめ細かな指導の充実と「わかる・できる授業」づくりとアセスメントシートによる特性把握 2 小中一貫教育(3校合同研究)の推進と1人1研究授業を通じた授業改善 3 読書活動の推進 4 家庭学習の充実	1について ○ 複式解消や各種調査結果の分析により個に応じた指導が充実した。 ○ 外部講師によるICT研修を行い、積極的に授業中においてタブレットPCを活用した学習を行った。 ○ 年2回の学校支援訪問では、PDCAサイクルを生かした教師一人一人の授業力向上が図られた。 ● さらに学力向上に繋がるICTの活用法について工夫する。	3	3	○ 分からないことに関して考える事や自分の意見を述べる事等ができています。 ○ 児童の作文等が新聞に掲載される事も多く、読書活動の推進が繋がっているのではないかと思います。 ○ 小中一貫教育は、メリットもあるのかもしれないが、中学校に入って学力の低さが気になる。 ○ 読書活動は、家庭でのテレビを見る時間をなくして、全員で本を読むなどに取り組んでみてはどうだろうか。 ○ 少人数だと何事にも競争心がかけてくると思う。その事が勉強にどう反映するか気がかりである。 ○ 個人指導で恵まれた環境。まだまだ親子ともに勉学に励んで欲しい。
		2について ○ 一人1授業では、主題研究を兼ねて授業者を中心として、全員が事前研究から事後研究まで授業を作り上げたことで、研究の深化が図られた。 ○ 計画的に3校合同研究が進められた。言語活動の充実に向けて、共通実践が行われた。			
		3について ○ 学校図書館協力員と連携して、図書室の環境整備や蔵書点検など実施できた。 ○ 季節や行事に関わる本や新聞記事、教科書掲載の本等の紹介コーナーの充実により読書の種類の中が広がった。 ● 家でも進んで読書をするよう、家読の奨励を工夫する。			
		4について ○ 「ノーメディア・読書量アップ週間」を保護者の協力のもと、計画的に実施できた。(年4回) ○ 家庭学習は、翌日提出し、評価をしてから返すことで、児童は目標をもって取り組めた。			
徳 育	重点目標： 豊かな心の教育の推進 手段： 1 西小林中校区の小中一貫教育のきまり定着及び集団規律の徹底 2 道徳教育の充実 3 キャリア教育の充実 4 朝のボランティア活動の活性化 5 「幸ヶ丘太鼓」の取組及び作品応募を通じた自信とやる気と達成感の涵養 6 教育相談の充実	1について ○ 「きまり」については、新たに自己反省カードを取り入れ、振り返る機会を定期的に行ったことで規律意識が高まった。 ○ 児童会活動にあいさつ運動を取り入れたことで、児童の主体的にあいさつする姿が見られた。 ● きまりの定着や集団規律、正しい鉛筆の持ち方について、今後も100%達成に向けて根気よく指導を行う。	3	4	○ 幸ヶ丘太鼓は、期待以上に良いと思う。今年は、発表の場が少なかったのが、寂しかった。 ○ 幸ヶ丘太鼓の取組は、幸ヶ丘小の子ども達がまとまり、一体感を感じることができる。子ども達の演奏終了後の表情が自信に溢れており、素晴らしかった。
		2について ○ 7月の参観日で全学級人権教育の内容で授業を実施した。 ● 道徳授業で高まった価値の実践化に繋がるような別業の活用の仕方も考えていく。			
		3について ○ 計画的に地域人材の活用が実施できたことで、多様な物の見方、考え方に触れ、将来の夢を抱いたり、職業観が育まれたりできた。			
		4について ○ 高学年を中心にボランティア活動への参加を呼びかけたことで、低学年の参加率が伸びた。 ○ 清掃活動や栽培活動を通して、進んで働く姿が多く見られ、奉仕の精神が培われた。			
		5について ○ 例年に比べ、発表の機会やコンクール等は減ったが、外部講師の指導を真剣に受けて、個の技能は上達した。 ● 今年度は、授業時数の減少から作品応募が厳しい面もあったが、今後も児童の作品投稿に努めていく。			
		6について ○ 複数の教師の目で児童を観察し、日頃より情報共有や共通実践が行われているので、問題行動の早期発見や早期解決ができた。			

体 育	重点目標： 健やかな身体の育成 手段： 1 一人一人に応じた体力向上の推進 2 外遊びの推奨	1について ○ 体力テストでの落ち込み内容を鍛えるための道具を教室内に設置したことで、休み時間に道具を手にする姿が見られた。 ○ 学校保健委員会でヨガ教室を開催し、親子で体幹を鍛える運動を行った。 ● 体力テスト結果について保護者への周知の仕方を工夫改善していきたい。	3	4	○ 病欠なども少なく、すこやかに成長している様子が伺える。 ○ 今年度は、コロナということで外遊びや基本的な生活習慣などに影響がないのか気になる。 ○ 他の小学校の話も聞くが、外で遊ぶことがなかなかない話も聞く。その為、環境的にも幸ヶ丘小は、非常に良いと思うので、外遊びをこれからも進めて欲しい。
	3 「早寝・早起き・朝ごはん」ノーメディアデーの奨励と基本的な生活習慣の定着	2について ○ 「幸パラ」としては実施することができなかったが、外に出て遊ぶ姿はよく見かけた。	3		
	4 肥満率の解消	3について ○ 養護教諭と学級担任の連携により、保健指導の充実が図られた。 ● ノーメディアに関しての講話は実施できなかったため、実施方法について検討していく。	3		
	5 全員登校年間150日以上	4について ○ 毎月1回の体重測定の実施や外遊びの奨励で、児童の健康への意識が高まり、体重の減少とともに肥満率の解消が図られた。	3		
	6 むし歯治療率の向上	5について ○ 1月20日に全員登校の日150日が、達成できた。	4		
		6について ○ 10月からフッ化物洗口が始まり、むし歯予防に努めることができた。	3		
食 育	重点目標： 望ましい食習慣の育成 手段： 1 給食指導の充実 2 体験活動と関連させた指導の充実	1について ○ 1月に給食感謝集会を行い、食への感謝の気持ちを育むことができた。 ● 無言給食の実施や向かい合わせの形態での細かな指導の方法を工夫していく。	3	4	○ 一度、食事（給食）を一緒に頂いた機会があったが、残す子どもがいなかったで感心した。 ○ 学校で身に付けた食事マナーが家庭などでもしっかりとできてくると良いのかなと思う。
	3 弁当の日の実施	2について ○ コロナ禍で栽培活動が計画通りには進まない中、サツマイモ作りを通して、収穫の喜びを味わうことができた。	3		
	4 家庭との連携	3について ○ 夏休みに「食の贈り物」を実施し、家庭の協力を得て調理に取り組むことができた。	4		
		4について ○ 毎月、保健便りや食育便りを配付し保護者への啓発を行ったことで殆どの児童が朝食をとっている。	3		
そ の 他	重点目標： 保護者や地域から信頼される安全・安心な学校づくり 手段： 1 小小・小中連携及び幼保小連携の推進	1について ○ 計画していた交流学习は、100%実施できた。 ○ 幼保小連絡協議会ではコロナの影響で計画の変更を余儀なくされた会もあったが、連絡を取り合い、情報の共有化が図られた。	4	4	○ 防災教育について、地区との合同や連携が図られればと思う。 ○ 今年度は、コロナ禍の中、特にクラスターになることなく学校側の感染予防取組がしっかりととされていた結果ではないかと思う。他の学校（県外など）では、予防対策がずさんな学校もあると聞いています。
	2 学校運営協議会の推進	2について ○ 学校運営協議会の日程調整を柔軟に行い、年3回の実施ができた。また、協議会委員の意見を学校運営に生かすことができた。	4		
	3 防災教育の推進	3について ○ 全ての避難訓練を実施し、児童は万が一の時の対応の仕方を身に付けることができた。	4		
	4 信頼される教職員の育成	4について ○ 毎月1回コンプライアンス研修を実施し、職員の不祥事等0（1月末現在）であった。 ● 研修の内容について更なる工夫をしていく。	3		
	5 働き方改革に向けた業務改善	5について ○ 職員間で声を掛け合い、全職員で働き方改革に向けた取組を実施したことで、数値目標を達成できた。 ● 更なる業務内容の精選を図っていく。	3		

次年度の方 向性 について の 校 長 所 見	○ コロナ禍での教育活動であったが、学校関係者による評価では概ね良い評価をいただいた。次年度も今年度の教育活動を継続するとともに、以下の取組に努めたい。 ・【知育】：外部人材の発掘と活用を図り、新しい取組を創造する。 ・【徳育】：児童の発表の機会（太鼓、作品投稿など）を増やし、自信をもたせる。 ・【体育】：児童の健康への意識を高める。 ・【食育】：家庭と連携し、食への関心や感謝の気持ちを高める ・【その他】：地域と連携した防災訓練を計画し、実施する。
--	--

